健康生活と看護学研究　3：20–22（2020）

〔特別報告〕 No. 4　短報

新型コロナウイルス感染症発生下における精神看護学実習代替としての学内実習での学びの検証

青井みどり，別宮直子

人間環境大学松山看護学部

（2020年10月21日受理）

Ⅰ．はじめに

令和２年２月28日付で文部科学省と厚生労働省（2020）から，「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校，養成所及び養成施設等の対応について」事務連絡が大学および関連機関にされた．その中で，実習施設受け入れの中止となった場合で，実習施設の代替が困難である場合は，学内実習等を実施することで，必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないことが明記されている．そのような中，精神看護学実習の実習施設から実習延期の知らせを受け，その後実習受け入れ中止となり，本学における精神看護学実習をどのように行うのか早急な判断が求められた．

精神科病院では，感染症が発生した場合，施設の特性や患者様の特徴から感染拡大が大きな問題となる．実際，精神科病院でのクラスターも発生しており，多くの精神科病院での実習受け入れ中止が出されていた．さらに本学の精神看護学実習は最終学年に行われるため，延期したとしても，今後，精神科病院で実習受け入れが可能となるか不透明な中，大きな不安や負担を学生に強いることが考えられた．様々な状況に鑑み，本学においては，令和２年度前期に精神看護学実習の代替を学内実習で行うこととなった．精神看護学実習の学内実習を６月８日から６月19日，６月22日から７月３日，７月６日から７月17日の３期間に分け実施した．

日本精神保健看護学会（2020）の「Covid-19感染拡大に伴う看護基礎教育現場の現状調査」によると前例のない事態に急な対応をしていく教員としては質の保証に大変苦慮していることが伺われた．また，当事者の協力を得たオンラインの活用等が行われていることが記されている．

本学が精神看護学の学内実習を開始した時期は，本学においてMicrosoft　Teamsを用いたオンライン授業は開始されていたが，精神看護学の学内実習では，動画の視聴等は活用できたが，オンラインを用いた当事者の方の話を聴講する等までは行えていない．このように限られた教材や感染対策上の制限の中，実施した精神看護学実習の学内実習を今一度検証したいと考えた．今後コロナ感染症以外でも実習施設等での実習が困難な場合，代替方法としての学内実習で，効果的に必要な知識及び技能を修得させる示唆が得られることは看護教育において重要と考えられる．

Ⅱ．目的

新型コロナウイルス感染症発生下における精神看護学実習代替としての学内実習での学びを検証する．

Ⅲ．研究方法

対象は精神看護学実習を終了したＡ大学の松山看護学部学生50名．調査項目および方法は，学内実習実施後提出された精神看護学実習記録「実習のまとめ」の意味内容を抽出し，カテゴリ化する．研究者２名が類似した内容ごとにそれぞれ抽出し，カテゴリ化まで行い，意味内容及びカテゴリ名の妥当性の確認を行う．また，実習後実習員会が行った無記名のアンケート結果を合わせて検証する．

Ⅳ．倫理的配慮

個人情報の保護については，匿名化を行い，その後のデータはランダムに番号を付けて取り扱う．また，研究協力の自由については，研究への参加は自由意志による同意であって，強制するものではなく，同意しない場合も何ら不利益を被らないこと等を文書と口頭で科目担当以外の教員が授業時間外に十分に説明した．研究者の所属する研究倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号2020M-003）．

Ⅴ．結果

同意の得られた50名（回収率100%）の実習記録のまとめから抽出した．結果の前に，学内実習の内容について簡単に触れる．学内実習は，「１）病院パンフレットを用いた病院オリエンテーションを受ける．２）各自の看護場面の再構成をグループ間で共有する．３）映像配信システムの事例に対する看護過程を展開する．４）DVDから精神看護学実習への取り組み方，精神障碍者の暮らしや，当事者の語りを学ぶ．５）各精神療法の実際や看護師の役割について，グループで調べ，発表する．６）モデル人形に実施した隔離・拘束から多角的なアセスメントとケアを学ぶ．７）精神科看護における倫理事例（DVD，紙上事例）を基に，グループで討議する．」といった内容で，感染対策を行いながら２週間の学内実習を構成した．

分析の結果，「精神疾患を生きる人にとっての病の意味」「精神看護で大切なこと」「精神疾患・精神医療の理解」「看護過程の展開」「場面再構成による自己理解」「倫理に関する演習の学び」「学内実習特有の学び」の主な７つのカテゴリが得られた．また，実習後のアンケートの満足度の平均点は3.8点（４点満点）であった．以下７つのカテゴリについての抜粋である．

１）精神疾患を生きる人にとっての病の意味

統合失調症の女性の語りと映像のDVDから，学生は統合失調症であることがその人にとって必ずしも不幸ではないことを知り，病との付き合い方を模索しつつ今を力強く生きている姿に感動をしていた．

２）精神看護で大切なこと

精神科では患者のペースに合わせて適度な距離をとることも重要であることや，患者の病に対する認識や苦しみを受け入れ，思いを傾聴する必要性を感じており，これは一般病棟でも大切なことだと思っていた．また，患者の暴力についても医療事故防止の観点から専門的な対応によって患者を加害者にしない，職員も被害者にならないことが大切だと気づいていた．

３）精神疾患・精神医療の理解

精神疾患は特別なものではなく，自分たちも発症する可能性があるものだと分かった．入院中心から地域生活へと変化している精神科医療を改めて学んだ．地域生活定着のためには，地域の人との交流や理解と協力が重要であると学んでいた．

４）看護過程の展開

学生は，映像配信された統合失調症の患者の情報を繰り返し視聴することで，発症前の生活や，発達段階，薬の副作用，再発のリスクなど多くの視点から情報を分析していた．患者の希望，強みについても，深いアセスメントができたと感じている．

５）場面再構成による自己理解

学生は，３年時の実習の患者とのやり取りの中で印象に残っている場面を再構成したものをグループの中で共有した．メンバーから様々な意見を吸収し，自己の言動の傾向を振り返ることは，今後の臨床での患者との関係形成に大きく役立つと感じていた．実際の実習では気づかなかった他のメンバーの様々な患者とのやり取りでの苦労を知り，自分だけが困っていたわけではないことが分かって少し安心すると同時に，どう対応したらいいか話し合えたことで次のかかわりのヒントを得ていた．

６）倫理に関する演習の学び

学生は拘束帯の実物に触れ，モデル人形に四肢・体幹拘束が実施されている場面を目の当たりにして衝撃を受けていた．学生全員が次々観察項目や対処方法を列挙し尽くすまで考える手法によって，精神保健福祉法の隔離・拘束における看護の重要な役割を感じていた．人権を重視した本人・家族への十分な説明，行動制限最小化への取り組みなどへの気づきにもつながっていた．

７）学内実習特有の学び

臨床実習でもカンファレンスはあるが，全員の事例の共有のための時間的・精神的な余裕がないため，じっくり意見を出し合うまでに至らないことが多かった．今回は学内で行ったことで，十分な時間をかけて話し合い，学生は自分にはなかった意見や考え方を知り，多くのことを吸収できたと実感していた．

Ⅵ．考察

今回の学内実習では，精神看護学実習の目標の一つである「精神疾患患者に関心を寄せ，援助者として関係を発展させ，必要な看護を実践する」ことについては，実際の患者さんを受け持ち，喜怒哀楽をともにしながら２週間看護実践をすることができないことで，学生も教員も大変不安であり，患者との信頼関係を形成しながら，看護実践を行う感動を味わうことができない悔しさがあった．しかし，精神科医療福祉の現状の理解や看護師の役割についての考察，倫理的な事柄への取り組みについては，複数の映像や紙上事例を用いた看護過程の展開によって，学生が主体的に学ぶことができる構成を工夫を行い，目標をほぼ達成できたと思われる．

他者理解・自己理解の優れた道具としての場面再構成は，精神看護学実習以外でも書く機会はある．しかし，教員との一対一の「書き方の添削」に終わることも多く，じっくり他の学生の意見を聞き，自己の新たな気づきを得，吸収し，次はもっとうまく対応できるかもしれないといった自己肯定感が生まれるまでには至っていないことがある．今回の学内実習では時間をかけ，積極的に参画する方法を工夫した．そのことにより，ヤーロムによるグループの治療的因子である「希望」「普遍性」「愛他主義」などが学生

の記録から表れていた．学生は実習では学生自身が得る機会の少ない体験を今回得たといえる．

倫理的な事柄に関しても，グループのメンバー間でも全く意見が違っていることや，何が正解なのかと悩むような体験をすることはなかなか臨床では難しい．現場の多職種間でも意見の相違や，背景に職種間葛藤を抱えていることなどが影響して，思っている意見を伝えるだけでも難しいことがある．このような生々しい現実は，映像化された架空の事例であるからこそ，倫理的問題の話し合いにおける重要なポイントが示されており，初学者である学生には理解しやすかったと思われる．多くの学生から学内実習終了後も，「１日だけでも実習に行きたかった」という思いが聞かれた．臨地での経験学修に勝るものはない．

コロナの終息がなかなか見込めない現状では，今後も同様に臨地実習が中止になる可能性に備え，リモート機能を活用し，実習施設のオリエンテーションや精神疾患を持つ当事者との双方向の学びを実施できるように計画していく必要がある．また，良質で効果的な映像配信の教材研究も欠かせない．

文　献

文部科学省厚労省事務連絡（2020年２月28日）「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、要請書及び養成施設等の対応について」https://www.mext.go.jp/content/202000302-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf

日本精神保健看護学会速報「COVID-19感染拡大に伴う教育に関する緊急アンケート結果」（2020年８月27日）https://www.japmhn.jp/covid-19

Verification of learning of on-campus training as an alternative to psychiatric nursing training during the outbreak of new coronavirus infections. Journal of Nursing Science in Human Life, 3: 20–22 (2020). Aoi Midori, Bekku Naoko (Faculty of Nursing Sciences at Matsuyama, University of Human Environments).